



今回は、富加町と連携した歴史探究フィールドワークについて報告します。

◇ 富加町教育委員会の方々と史跡を見学し、地域の歴史を学びました！

日時：令和元年 7月 7日(日) 8:00 ~ 14:00

案内：富加町教育委員会

参加：関高校地域研究部 5名、岐阜大学学生 1名、関市役所 2名

内容：織田信長による中濃攻略戦に関わる山城や古戦場をめぐり、地域の歴史について考える。あわせて、地域の歴史資源の活用について考える。

探訪先：加治田城址、旧加治田城下町、夕田茶臼山古墳(織田信長本陣推定地)、堂洞城址、恵日山(海老山、織田信長本陣推定地)、春日神社、関城址(安桜山)

◇ 富加町の歴史を現地で学び、歴史遺産の活用について考える



加茂郡富加町は、夕田茶臼山(ゆうだちやうすやま)古墳や半布里(はぶり)戸籍をはじめとする歴史遺産に恵まれた町として知られています。

数ある史跡の中で、私たち地域研究部は、中世山城の加治田城や堂洞城に着目しました。織田信長は美濃攻略にあたって、まずは中濃地域にくさびを打ち込みました(『信長公記』)。加治田城や堂洞城は、信長の中濃攻略作戦の古戦場であり、富加町では遺跡の現状を把握するとともに、教育や観光などの分野における活用を図っています。

今回、私たちは、富加町教育委員会の島田崇正さん、山内正明さんの案内で、信長による制圧作戦に関わる古戦場をめぐりました。文献史料から遺跡の現状をどう読み解くか。おふたりによれば、信長の時代からすでに450年を経た今日でも、史料の再検討や遺跡の調査により、新たな事実が判明することがあるそうです。今回のフィールドワークは、歴史の証人でもある貴重な文化財を守る意義について、あらためて考える機会となりました。

◇ 生徒の感想

■ 今回のフィールドワークで改めて感じたこと、それは、信長はやはり賢い武将だということである。信長は美濃攻略の際、敵の本拠地を初めから攻めるのではなく、あえて東美濃から攻略を開始した。交通の要所である加治田や、日本刀の生産地であり経済活動が盛んな関、これらの地域の重要性を理解していたからだろう。こうした、戦いにおける強さだけでなく、賢さを持ち合わせていた信長だからこそ、有力な戦国大名に成り得たのだと思う。

加治田城主、佐藤紀伊守も同様である。今でこそ、信長は戦国時代随一の大名として知られているが、美濃攻略を始めた当時は、尾張を領するだけの一大名だ。そんな時に、周りを裏切って信長につくという判断を下した佐藤紀伊守。非常に先



見の明を持った武将だと言える。

このように、当時の人々が関わった地域や史跡を訪ねることで、その人の考え方まで見えてくるのがとても面白い。これから調べていく明智光秀も、研究をする中で、きっと、今の僕がイメージとは異なることが見えてくるだろう。これからの研究が楽しみだ。

■今日のフィールドワークでは、信長が始めに東美濃を攻めた理由がよくわかりました。一方、自分たちの領地を守ろうとした領主の奮闘を、山城に行くことで肌で感じることができました。また、自分の住んでいる土地にも信長が攻めてきて、地元の領主と戦っていたと思うと感動しました。

今回のフィールドワークで、信長ばかりに光があたりがちだけど、領地を守ろうと頑張っていた領主の戦略が肌で感じられたし、自分の住んでいるところにも信長が来ていたと思うと自分の住んでいる土地に誇りがもてました。

今日一日、ありがとうございました。



今回、富加町教育委員会の方々にお世話になりました。私たちが古墳を観察しやすいように、草刈りをしてくださった地域の方、ありがとうございました。今度は、加治田の旧城下町をじっくり歩き、酒蔵や刀剣工房を訪ねたいと思います。